

## 市川自然博物館

2・3月号

（通巻第10号）

だより

シャッター  
チャンス

## ～ヒキガエル～

おたまじゃくしに手足が生えてかえるになる。かえるは卵を産み、卵がかえっておたまじゃくしになる——誰でもよく知っているかえるの一生ですが、では、こんなことは知っているでしょうか？ まだ寒い3月の夜、ヒキガエルは冬眠からいっせいに目覚めて、決まった池で卵を産みます。ヒキガエルが鳴くのは一年に一度、産卵の夜だけです。おたまじゃくしは真っ黒で、はじめのうちは水面を覆いつくすほどたくさんいます。おたまじゃくしは、まだあまり成長しないうちに手足が生え、5月ごろ1cm足らずの黒い小さなかえりとなって、水を離れ林に入っていきます。

# 特集 冬は街なかで

冬は寒くて、生き物のすがたも少ない季節。野外での自然観察もついついおっくうになってしまいます。しかし、春はもうすぐ。体ならしをかねて、街中を歩きながら自然観察をしてみましょう。

## 上を向いて歩こう

街には、数多くの街路樹が植えられています。街路樹を1本1本よく観察すると、かわったものが見つかるかもしれません。さあ、上を向いて歩こう。

観察するポイントは、街路樹の幹から枝分かれしている部分や、太い枝がふたまたになっているところ。こうした部分に小枝が重なりあってのっていたり、ビニールの紐が巻きついていたりしたら、要注意。鳥の古巣かもしれません。



鳥たちの繁殖の時期には、巣に近づいてのぞきこんだり、触れたりできませんが、繁殖が終わって街路樹に放置された古巣は、再び利用されることはほとんどなく、巣の形や材料などをじっくりと観察できます。秋、まだ街路樹に葉が残っている時にはなかなか見つからなかった古巣が、冬にはとても見やすくなるのです。

古巣を見つけたら、大きさや形を観察してみましょう。街路樹によく巣を作るのは、キジバト、ヒヨドリ、オナガ、カワラヒワなどです。これらの鳥の巣は、大きさや形からすぐに判別できます。

つぎに巣の材料にも注目。キジバトは普通細い小枝を重ねた皿状の巣を作りますが、自然博物館の観察例では、針金だけでできたものや、芝生のシバの茎だけのもの、シュロ縄のような紐状のものを集めたものなど、さまざまです。

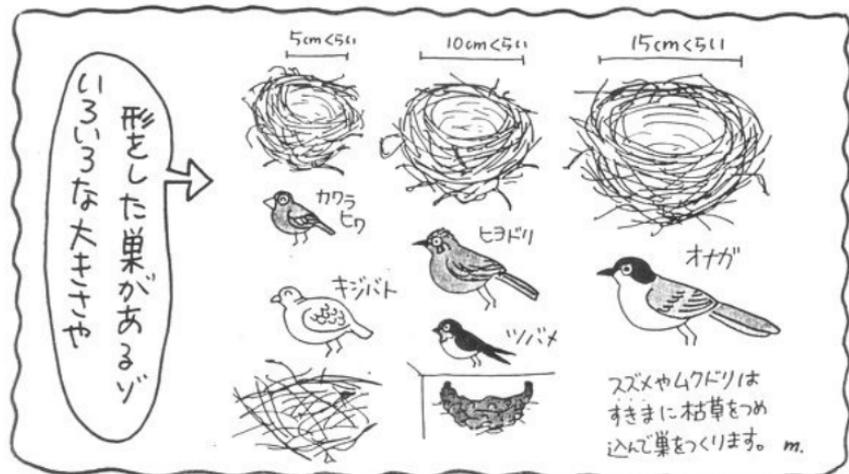
街の野鳥の生活を知るうえで、古巣の観察はいろいろなことを教えてくれ、興味がつきません。

◀ 目をおーっと上に向ければ...

ほう！木の上に  
古巣発見!!



# 自然観察しよう



## 下を向いて歩こう

街路樹の根元や植え込み、公園のかたすみなどでは、根ぎわから放射状に葉を何枚も出して地面にはりついている植物が、いろいろと目につきます。これは、ロゼット植物といい、地面にはりついていると温度の変化がゆるやかで、寒さに耐えやすいのです。



▲ ハルジオンのロゼット

ロゼットをつくる植物は、ハルジオンやヒメジョオン、ヒメムカシヨモギ、オオアレチノギク、ノゲシのなかま、タンポポのなかま、マツヨイグサのなかま等数多くあります。

ロゼット植物は冬の間、じっと眠ったままのように見えますが、じつは、ひと冬で驚くほど成長していて、春の準備をしています。春になると急速に草たけを伸ばすのです。

## 街は生きている

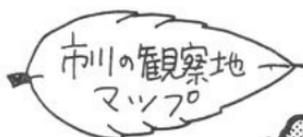
冬でも街は生きていて、古巣やロゼット植物などの観察ばかりではなく、身近な場所で、さまざまな生き物の営みを観察することができます。街中で生き物たちは、冬をどのように過ごしているのでしょうか。街へ観察にでかけましょう。

# 市川・自然探検

<最終回>

～春になったら

身のまわりで探してみよう～



## 小塚山・堀之内

- ・木の小島たち...  
シジュウカラ メジロ  
ホオジロ コゲラ など...
- ・林の花と新緑  
ウグイスカワ  
シロバナタンポポ  
コナクズキ イヌツル など...



## 大町自然観察園

- ・木々の花と新緑  
コフシヤマサケウラの花  
コナラ イヌシヅメコノキの緑
- ・湿地の春の花  
フキ オランタカラシ  
タネツケバナ などなど

## 柏井雑木林

- ・林に咲く春の花  
クサオケ タネツケバナ  
ヒトリシズカ など...

## 国府台の江戸川

- ・春の河川敷の花たち  
カシウタンポポ、ホトケシ  
スズメバチ、ノリシ...
- ・眼帯植木の花と新緑  
タビナキ、スズメバチ、クサキ...

## 江戸川放水路

- ・堤防を彩る春の花  
ノアザミ、ハマダクサ、コウゾリ  
ヒメジョオン などなど...
- ・水辺の鳥  
コナドリ、シロドリ、ダイゼンなど...
- ・5月になれば、トビやカニガ  
巣をあらわします。

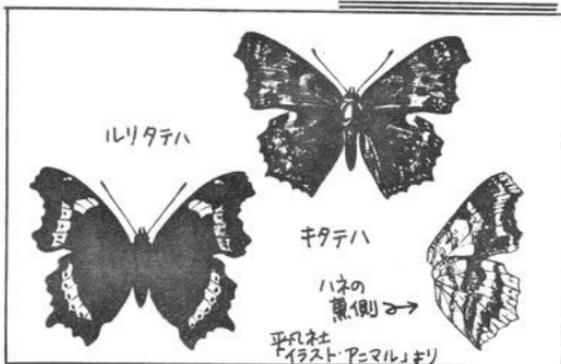
東京湾



# 市川のこん虫 タテハ チョウ



タテハチョウはハネの大きさが中型から大型のチョウで、市内では十数種類記録されています。このうちもっとも普通に見られるのは、キタテハとルリタテハです。キタテハは、橙褐色の地に黒褐色の斑紋をちりばめた模様です。ルリタテハは、黒藍色のハネに青色



の一本線がはいっています。これらのチョウのハネの裏は、表に比べかなり地味です。しかもへりがギザギザで、ハネを閉じて地面にとまっている姿はちょうど枯葉のように見えるので、鳥などの外敵から身をまもる役目をしています。またこれらのタテハチョウは、さなぎではなく成虫で越冬するので、暖かい日に飛んでいるのを見かけることがあります。越冬したチョウはハネの色も薄く、ボロボロの姿です。みなさんもこれから3月ごろにタテハチョウを見かけたら、ハネがどんなようすかよく見てみましょう。

むかしの市川 ～その8～

## 市川のリス

今では、市川市内でリスを見かけることはほとんどなくなりました。昭和59年の北国分からの報告が最後のようです。

昭和一ケタ時代に、「遠足で里見公園に行ったら、たくさんのリスが木から木へと飛び交っていた」というお年寄りの話も聞きました。その頃は、新田あたりまで姿を見せたそうです。真間山では昭和8年、八幡の八幡神社境内でも昭和10年にリスがいたという報告があります。

国府台から北国分にかけてと、中山法華経寺から北方3丁目の子の神社周辺に



かけては樹林が多かったので、昭和30年代まではたしかにいたようです。

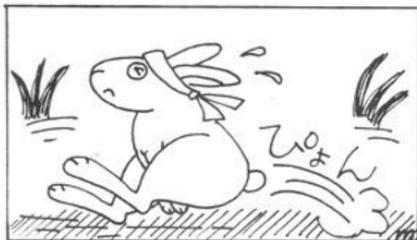
柏井や大町付近では、今でもいるという話を聞きますが、実際には見ていません。確実な情報があったらお知らせください。(博物館指導員 大野景德 記)



暖冬のせいかなかなか葉の落ちなかった落葉樹も、今ではすっかり丸ぼうず。湿地をとりまく斜面の林はすけすけになって、夏はどこまでも続く深い林の様にみえたのに、台地の上の梨畑まで見えてしまいました。こんな狭い林ですが、いろいろな生き物が生活しています。

昨年(2007)の3月のことでした。鳥の調査のため早朝園路を歩いていると、突然、わきの湿地にいた何か大きなものが、ものすごいスピードで園路の下をぬけて斜面の林へと逃げ去っていったのです。あの後ろ姿はまさしくノ

ウサギです。ウサギというと飼うウサギを連想する人が多いかもしれませんが、あのスピードと引き締まった体つきは、やはり野生ならではのものなのでしょう。林はノウサギにとって、大切なかくれがになっているのです。



# 行徳野鳥観察舎 だより

たくましい  
ハクセキレイ

野鳥病院兼管理人宿舎となっていた観察舎旧館は目下建て替え工事中。建物が取り払われて裸になった地面にハクセキレイがさっそくやってきて、いそいそと餌を探している。

畑や河原、海岸などの裸地が好き。関東では冬鳥だったが、20年ほど前から少数が工場の中、護岸のすきまなど人工物に巣をつくるようになった。駅前のビルや街路樹に集団でねぐらをとり、話題を呼ぶこともある。

師走の湾岸道路。赤信号で車が止まった一瞬、道路の中央にハクセキレイが舞いおりた。

信号が変わり、自動車の大群が轟音を上げて左右からせまる。あぶない！しかしハクセキレイは自信たっぷりにゆうゆうと飛び立った。都会派の鳥の度胸に脱帽。



文と絵・蓮尾純子

みて! つくって!

# いきもののおりがみ

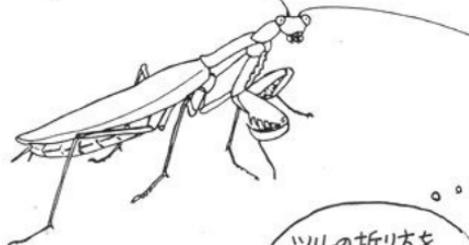
3月19日(火)～4月7日(日)

●自然博物館・特別展示室にて

身近にいる昆虫や野鳥など、ふだんはなにげなく見ているものも、いざ実際に描いたり、作ったりしようとする、なかなかうまくできないものですよね。おりがみで本物のようにかっこいいものを作るにはどうしたらよいでしょう。今回はそのポイントをいくつか解説します。標本もたくさん展示してありますから、よく見て、自分でかっこいいおりがみをさらに工夫してみましょう。

期間中は、おりがみ指導も行っています。

さあ、みんなで博物館へ行こう!



※詳しくは博物館まで  
お問い合わせ下さい。

